

アムスルだより

No.36 1999年 3月13日

Akajima Marine Science Laboratory 阿嘉島臨海研究所



〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179

<http://www02.u-page.so-net.ne.jp/pb3/saburo>

TEL:098-987-2304 FAX:098-987-2875 E-mail:amsl@ryukyu.ne.jp



白化したサンゴのその後

昨年、過去に例のないほど大きなサンゴの白化現象が起こり、新聞やテレビなどでも大きく取り上げられました。この大規模な白化現象は、阿嘉島でも起こり、これについては以前「アムスルだより NO.33(1998年9月)」でも紹介しましたので、記憶にある方も多いかと思います。サンゴの白化現象は、高水温などサンゴにとって悪い環境にさらされることで起こります。そして、その悪い環境が短い期間ならば、よい条件にもどった後、サンゴの中の褐虫藻は再び増えはじめ、元に戻りますが、長い期間続くと、ただでさえ悪い環境の中、栄養をくれるはずの褐虫藻もないサンゴは、やがて死んでしまいます。あれからおおよそ半年がたち、実際の海の中で、昨年白化したサンゴたちはどうなったのでしょうか。今回は、白化したサンゴたちのその後

について報告したいと思います。

研究所では、去年の9月から、阿嘉島周辺のいくつかの地点で調査を続けてきました。これから報告するマエノハマはその中の1地点で、比較的サンゴの白化がひどかったところです。この調査範囲の中には、およそ300群体のサンゴがいたのですが、去年9月の終わりには、その33%(101群体)が完全に白化し、また、58%(175群体)のサンゴも程度の差はあれ白化した部分が見られました。そして、4%(7群体)は、すでに死んでいて、元気なサンゴは、残りのわずか5%(15群体)しかありませんでした。じつに、95%のサンゴが、白化によりダメージを受けていたのです。それからこれまで、これらのサンゴを1群体1群体調べ続け、どうなっていくのか観察しました。

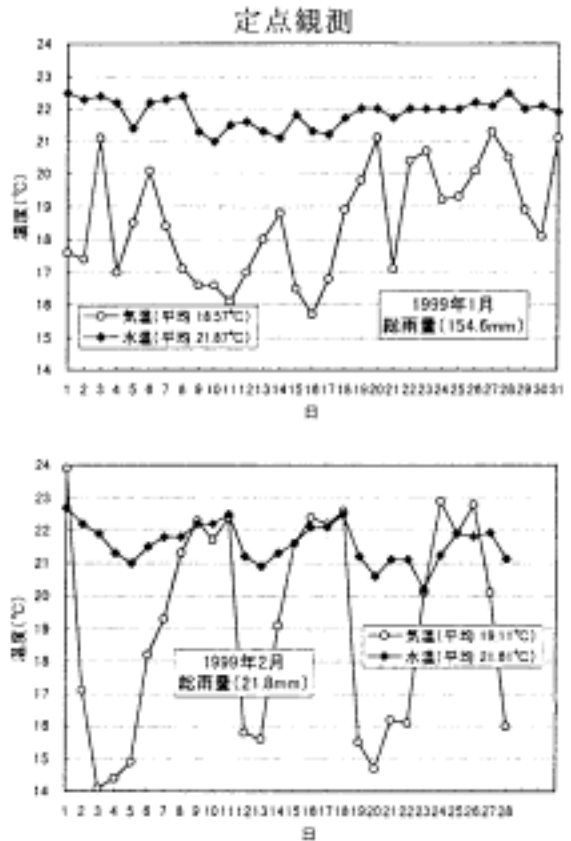
白化によってダメージを受けたサンゴのうち、あるものは、体の中で再び褐虫藻が増え始めたのでしょ、体の色がだんだん元の茶色に戻って、元気を取り戻していきましたが、いくつかのサンゴは、元に戻ることなく死んで

しました。

5ヶ月後の今年3月の初めに、去年9月に調べた300群体がどうなったか観察したところ、完全に白化した群体は全くなり、逆に元気なサンゴが49%(148群体)へとずいぶん増えていました。まだ、少し白化したものが15%(46群体)いますが、阿嘉島のまわりでの白化現象は、おおよそ収束したと言っていいでしょう。ただし、その結果、25%(76群体)のサンゴが死亡してしまったことを言うておかなければなりません(11%のサンゴは、なくなってしまったりしてどうなったのかわかりませんでした)。

死んで間もないサンゴの上には、黒っぽい海藻がはびこり、見た人を暗い気持ちにさせました。この死亡したサンゴの割合は、沖縄本島周辺の礁池などに比べれば少ないのかもしれませんが、美しいサンゴ礁を誇る阿嘉島で生き生きとしたサンゴを見続けてきた人にとってみれば、やはり残念な出来事だと言わざるを得ません。

サンゴ礁に残った白化現象の傷跡。これが元のサンゴ礁の状態に回復するためには、新しいサンゴが根つき育つ必要があります。その出発点でもあるサンゴの産卵に、去年の白化現象がなにか影響を与えるのか、研究所では今年もサンゴの産卵時期に合わせていくつかの調査研究を行っていきたいと思います。



アムスルからのお知らせ

-水温観測地点の変更-

アムスルだよりに毎回掲載されているグラフの水温データは、これまで阿嘉漁港で観測してきました。しかし、新しくできた防波堤により、外とずいぶん違う環境になったので、2月26日からは、阿嘉新港外側の岸壁に観測地点を変更しました。

-パネルの展示-

阿嘉新港に船客待合所ができて、便利になりましたね。研究所はその待合室の壁をお借りして、サンゴや阿嘉島周辺の白化現象などについて、図や写真を用いて解説したパネルを展示しています。船を待つ間にでも、是非ご覧下さい。